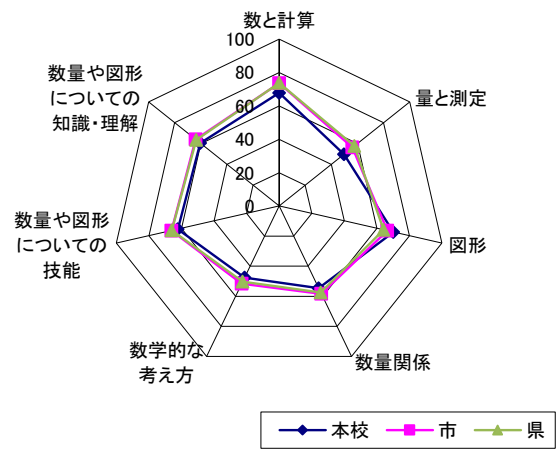


宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.8	73.6	73.7
	量と測定	49.8	56.2	57.7
	図形	70.2	66.5	64.2
	数量関係	54.6	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	47.6	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	62.2	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	60.4	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、県、市の平均正答率を下回っている。 ○小数第2位までを100倍した数を求める問題の理解は高く、県、市の平均正答率を上回る。 ●分数の引き算や小数×整数のかけ算、小数÷整数の割り算は、県、市の平均正答率を下回り、特に小数×1位数の計算、数直線の目盛りを分数で表すこと、0.01を単位とした相対的な数で表すことに個人差が大きい。 ●帯分数－真分数の計算は、正答率は7割だが理解の差が大きい。	・かけ算やわり算の計算の定着を図れるよう、授業での復習やや宿題、自主学習などで、繰り返し問題に取り組ませる。 ・帯分数を繰り下がりさせる過程を、図や数直線を用いて考える場面を多く取り入れることで、改善を図る。
量と測定	●平均正答率は、県、市の平均正答率を下回っている。 ●㎡をcm²で表すなど面積の単位の変換の理解が不十分な児童が多く見られる。 ●図で示された角度の大きさの範囲を選ぶ問題についての理解に個人差が見られる。 ○黒板のおよその面積を推測する問題は、県、市の平均正答率を上回っている。	・1m→100cmなどのように、長さの単位から面積の公式に当てはめて計算させたり、正方形や長方形の図を用いて考えさせたりする問題に多く取り組ませることで、単位変換の問題の定着を図る。 ・授業の中で、長さや面積を体感させるような体験活動を積極的に取り入れ、量感を育むとともに、練習問題や宿題などで定着を図る。
図形	○平均正答率は、県、市の平均正答率を上回っている。 ○ひし形を対角線で分けた形を問う問題については、県、市の平均を上回る。 ○立方体の展開図を完成させる問題については、8割以上の児童がよく理解している。 ●直方体において、面と垂直な辺の組み合わせを選ぶ問題についての理解が不十分な児童が見られる。	・直方体や立方体の立体模型や空き箱を用いて考えさせることで、面と垂直な辺の組み合わせについて実感を伴って理解できるようにする。
数量関係	●平均正答率は、県、市の平均正答率を下回っている。 ○四則混合で()のある式について、計算の順序を選ぶ問題については、8割以上の児童がよく理解しており、県、市の平均正答率を上回っている。 ○倍で表された数量関係の場面を表したテープ図を選ぶ問題では、よく理解している児童が多く見られる。 ●比較量と倍から、基準量を求める問題については、市、県の平均正答率をやや下回っている。	・比較量や基準量、倍を問う問題では、式だけでなく、教師が数直線や図を用いて説明したり、児童に説明させたりすることで、改善を図る。